

巻頭によせて



校長 北 村 聡

Kitamura Satoshi

「資本家階級 (=私見としては一部の実業家というべきか) は人間を血の繋がったその長上者に結びつけていた色とりどりの封建的な絆を容赦なく遮断し、人間と人間の間に、むき出しの利害以外のつめたい『現金勘定』以外のどんな絆も残さなかった。彼らは、信心深い陶醉、騎士の感激、町人の哀愁といった清らかな感情を、氷のように冷たい利己的な打算の水の中で溺死させた。」(注) これは奇しくも、まるで三島由紀夫が戦後の日本がたどり着くであろうと予言したところの、「からからの時代」のことを言っているようである。

精神的支柱というものを持たない、利害と打算、責任回避と冒険回避、自分勝手に不要と判断した余計な仕事、できそうにもないと判断したことには手を出さない。義務よりも常に権利を主張し、義理人情、仁義よりも規則や決まり事に固執して自己判断をしない。自分の命よりも大切なものはないと言い、お金よりも大事なものはないと言う。ましてや他国が攻めてきても、日本を守るために命までかける気など毛頭ない。決して悪人ではないが、このような生き方では人生に魅力がないと思う。

そんな大人が増えるから、若者の成長にまで影響を及ぼすのである。これが、第二次世界大戦後の日本の教育がもたらした「成果」なのである。

すなわち戦後の日本は経済成長を優先して、富と便利さ、何らかの「成果」を追求することに熱心なあまり、人間として、日本人としての精神的支柱について考える機会、教育を軽んじてきたのである。文学や歴史、哲学や芸術といった、一見すぐに役立つようにない大切なものを軽んじてきた「つけ」が今まわってきている。いじめや虐待、家庭教育力の衰退、家族の崩壊など、法律を整えて解決できる問題ではない。

自分たちを犠牲にすることによって、日本の将来に希望をもたらすと信じて戦火に散った人々の気持ちについても考えなければならない。銭金のことではなく、人間の生き方について、今こそ落ち着いて考えなければならない。先に言う「清らかな感情」を取り戻さねばならない。まだ、少しでもそれが残っているのなら、これを守り育てなければならない。

有名大学への進学や、グローバル社会で生き抜く力の育成も大切だが、土台がなければ全ては「砂上の楼閣」にすぎなくなる。

私立学校の「建学の精神」はその土台のところを守っている。「こんな人を創りたい」という学校創立者の精神を教職員が確実に継承しなければならない。日本のため、世界人類のために、その精神を生かしてゆかなければならないのである。

万国の私学人よ、奮励せよ。

渡る世間は十人十色、これまで「絆」で述べてきたように、以上は今回も一つの意見、さて、皆さんはどう思われますか。

完

注 マルクス エンゲルス 「Manifest der Kommunistischen Partei」
大内兵衛 向坂逸郎 訳 昭和 50 年 岩波文庫

◇2001年 4月

- ・校名を「京都外大西高等学校」とする

◇2004年 4月

- ・第六代校長に北村聡就任

◇2005年 4月～2008年 3月

- ・文部科学省「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール (SELHi)」指定校に認定

◇2017年

- ・学校法人京都外国語大学創立70周年

◇2017年 4月

- ・特進コース スープリームを特進Ⅰコース、特進コース エクシードを特進Ⅱコース、ステラコース (旧普通コース・チャレンジコース) を総合進学コースに改編



2004

2017

2022

◇2012年 4月

- ・「ユネスコスクール」に加盟



◇2022年

- ・京都外大西高等学校創立65周年

◇2022年 4月

- ・特進コースをグローバル特進コースとし、特進Ⅰを選抜文系、特進Ⅱを躍進文理に改編

長年に渡り
本校の発展に
ご尽力いただき
本当にありがとうございました